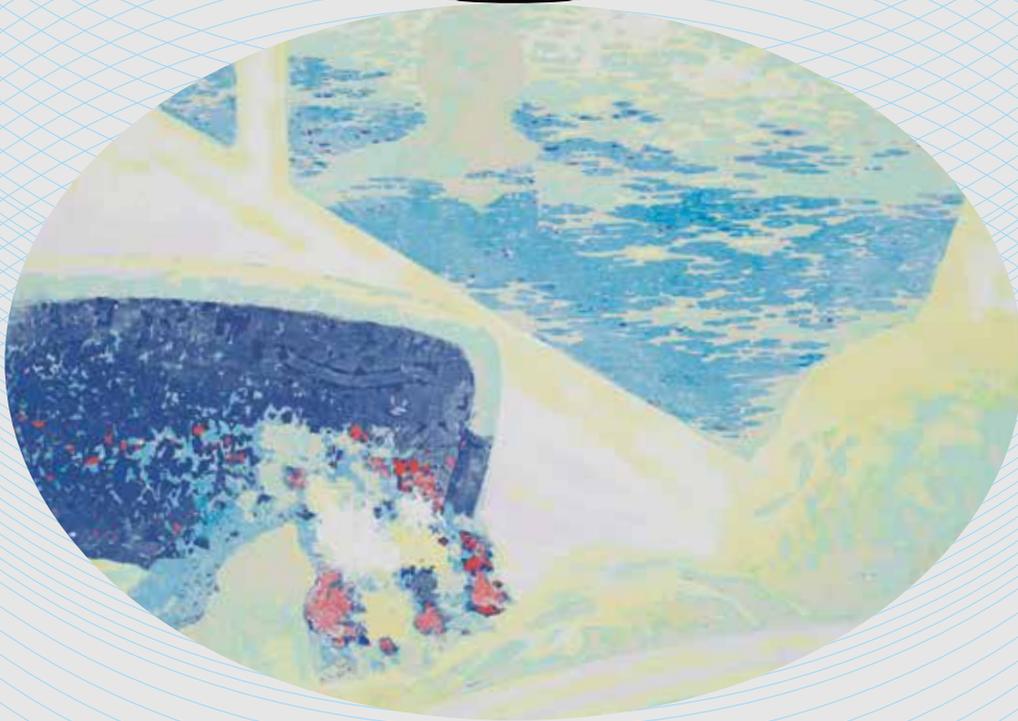


# 波紋のかなたに



若手アーティスト支援プログラム Voyage  
大久保雅基・佐竹真紀子展



2021.7.17<sub>[土]</sub> - 9.5<sub>[日]</sub> 塩竈市杉村惇美術館

開館時間 10時～17時 (最終受付 16時 30分) / 月曜休館 ※8/9 [月祝] 開館、翌日休館  
宮城県塩竈市本町 8-1 / 022-362-2555

展示観覧料 (常設展+企画展 / ※各種障がい者手帳を提示された方は割引。団体割引有。)  
一般 500円 大学生・高校生 400円 メンバーシップ・中学生以下無料

主催：塩竈市杉村惇美術館 共催：塩竈市  
助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団 (仙台市)  
協力：志波彦神社・鹽竈神社  
後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局  
読売新聞東北総局 TBC東北放送 仙台放送  
ミヤギテレビ KHB東日本放送 エフエム仙台  
BAYWAVE78.1FM ケーブルテレビマリネット  
仙台リビング新聞社

上：大久保雅基 (部分) / 下：佐竹真紀子《花の相席》(部分)

7回目を数える今回は、公募により選考された作曲家・大久保雅基、美術作家・佐竹真紀子をご紹介します。

大久保は、電子音響音楽、コンピュータ音楽、室内楽、インスタレーション、映像等の多岐にわたる表現手法を用いて新たな音楽体験を創造しています。テクノロジーを用いて器楽の演奏行為を拡張しつつも、人間の身体性の根本に迫ろうとする作品は、常に社会の動向をとらえながら、未知の体験や考え方に会わせてくれるものであり、音楽の持つ可能性を開拓しています。

佐竹は、絵画や立体などの手法を介して作品を制作。近年は主に絵画に取り組み、震災後の東北各地で目にする風景と、人々に聴く暮らしの情景とを重ね合わせた表現を思考しています。塗り重ねた絵の具の層を彫刻刀で彫り出すという手法で、彫り起こす深さによって凹凸と色彩に富む作品は、過去の記憶から現在、そしてこれから先の未来を行き来する人々の語りや風景とを繋ぐ表現を追求しています。

これまでさまざまな社会の事象をテーマとしてきた大久保は、東日本大震災以降、改めて震災に正面から向き合う作品に取り組みました。塩竈市民の心のよりどころである鹽竈神社をリサーチするなど塩竈にてフィールドワークを行い、災害を引き起こす自然現象の振る舞いを理解し、天災を鎮めるための場として、神域を表現した作品を発表します。

佐竹は塩竈で出会った人々と対話を重ね、人の中に宿る塩竈の面影と、幾重にも歴史が折り重なるまち並み、自然豊かな島々とが合わさる塩竈の風景とを繋ぐ新作を発表します。

これまで経験したことのない災害に直面し、昨今の私たちの生活が大きく変化する中で、インターネット上でのコミュニケーションの必要性がより高まる反面、人と人との直接的な対話の重要性にあらためて気づかされることも増えているのではないのでしょうか。

物事の根本が揺るがされるたびに私たちは互いに知恵を出し合いながら、また、自然との対話を試みながら困難な状況を乗り越えようと思われ、行動してきました。

東日本大震災から10年の歳月が流れ、新型コロナウイルスに社会全体が大きな影響を受けています。自然のざわめきや人々の語りやに耳を澄ませ、表現による対話の可能性を広げる二人の表現を通じて、それぞれに抱える思いが繋がりあい、さらに波紋のように広がっていく機会になることを願っています。



おおく ぼもと き  
大久保雅基 / Motoki Ohkubo

作曲家。1988年宮城県仙台市出身。洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコースを成績優秀者として卒業。情報科学芸術大学院大学[IAMAS]メディア表現研究科修士課程修了。名古屋芸術大学、愛知淑徳大学、相愛大学非常勤講師。

【主な活動】 Contemporary Computer Music Concert 2010, 2013~2019出演。Festival Futura 2010、関西・アコースマティック・アート・フェスティバル 2011~2013、富士電子音響芸術祭 2013, 2014、サラマンカホール電子音響音楽祭 (2015) 等で作品を上演。Contemporary Computer Music Concert にて ACSM116 賞 (2010 / 東京)、Wired Creative Hack Award 2019 にて Sony 特別賞を受賞。



さたけ まき こ  
佐竹真紀子 / Makiko Satake

美術作家。1991年宮城県出身、利府町在住。2016年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。一般社団法人 NOOK としても活動中。

【個展】2014年「記憶する皮膚」(ギャラリー東京ユモニテ/東京)、2016年「対岸に相槌」(SARP 仙台アーティストランプレイス/宮城)、2020年「波残りの辿り」(東北リサーチとアートセンター TRAC/宮城)

【主なグループ展】2017年「VOCA展 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」(上野の森美術館/東京)、2021年「3.11とアーティスト：10年目の想像」(水戸芸術館現代美術ギャラリー/茨城)

《ゆかしくて、ついでいく》  
写真提供：水戸芸術館現代美術センター  
撮影：根本謙

若手アーティスト支援プログラム「Voyage」とは、これからの活躍が期待される若手アーティストの可能性に光をあて、新たなステップを提供することを目的に、展覧会を中心としてトークやワークショップなど多様な表現の機会を設ける事業です。これまで、多くの人々にとって新たな才能や感性と出会える場となるよう毎年度ごとに異なる作家と共に取り組んできました。展示制作にかかる費用の一部のほか、企画や広報などに関する支援を通して、地元ゆかりのある若手アーティストの意欲的な表現活動をサポートし、発表の場を提供します。今年度の特別審査員は、藤浩志氏(美術家・秋田公立美術大学大学院教授)、三瀬夏之介氏(日本画家・東北芸術工科大学教授)、和田浩一氏(宮城県美術館学芸員)です。

関連企画

潮紋祭 ※「暮らしの市 2021夏」内で開催。

2021/7/24 [土] 10時~15時 大講堂  
大久保雅基による、展示内容に関連したサウンドインスタレーション。お祭りの開幕と閉幕の時間にパフォーマンスがあります。

おしゃべり会

10時30分・12時30分

塩竈周辺での思い出や暮らしについて思うことなどを、気軽におしゃべりする場です。

聞き手：佐竹真紀子

クロストーク

大久保雅基(作曲家)

× 飯沼由和(俳優) × 尾崎森平(美術家)

13時30分 2階サロン [予約優先]

東日本大震災やコロナ禍を通しての芸術のあり方、それに続く未来の芸術について語り合います。展示観覧料でご参加いただけます。

ギャラリートーク

大久保雅基・佐竹真紀子

2021/7/31 [土] 14時 企画展示室

定員：15名 [要予約]

作家による作品解説等アーティストトーク。展示観覧料でご参加いただけます。

おか  
耳を澄ませる、陸と島の行き来

2021/8/22 [日] 9時~(3時間程度)

集合場所：マリンゲート塩釜・切符売り場

参加費：300円+船賃別途

定員：10名 [要予約]

佐竹真紀子とともに、陸(おか)から島へ市営汽船で渡り、また島と島を渡船で行き来し島歩きをします。※雨天の場合、翌週29日(日)に延期。

問合せ・申込み / 塩竈市杉村惇美術館

宮城県塩竈市本町 8-1

電話 022-362-2555



本企画は手指の消毒や換気、三密を避けるなど、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしています。また、ご来館の方にはマスクの着用をお願いしています。今後の状況次第ではオンラインでの実施など、内容が変更になる場合があります。変更がある場合は当館ホームページ、SNS等でお知らせいたします。